

法人名	公益財団法人 大阪府保健医療財団
作成（所管課）	健康づくり課

○ 経営目標設定の考え方

ミッション

○精度の高い検診を実施
府民のがん検診受診率の向上や検診精度向上の観点から、専門性を活かして検診内容を充実しつつ、府民のがんによる死亡率の減少を目指す。

○公益財団法人として自立化
中小企業に働きかけ、がん・特定健診を実施して受診率の向上と収益の向上につなげる。

- 大阪府の施策
- ・健康づくりの推進

基本方針

1 精度の高い検診の実施

- ・利便性の高いがん検診を提供することにより受診者増を図る。
- ・モデル検診機関として精密検査未受診者に対し個別通知による受診勧奨等を図る。
- ・検診機関が不足している市町村での集団検診の重点実施及び閑散期における検診の促進を図る。

2 自立化を目指した公益財団法人の経営

検診機関不足地域での効率的な車検診の実施と、がん検診と循環器健診を併せて行う総合健診を実施し、総合的で実践的な保健指導技法を開発することにより、受診者の拡大を図り、安定的な収益構造を作り上げる。

戦略目標と成果測定指標【中期経営計画上の目標値】

①市町村等の要望に応え検診車の効果的な稼働と精度の高い検診を実施する。

- ・検診車によるセット検診（乳がん・子宮がん）の実施回数
【86回(H30実績)→95回(R3)】
- ・市町村の個別検診の受託件数
【13件(H30実績)→16件(R3)】
- ・大腸がん（職域）検診の精検受診率
【71.9%(H30実績)→75.0%(R3)】

②受診者から評価の高い検診実施により、事業の安定化を図る。

- ・総合健診の受診者数
【15,289人(H30実績)→15,600人(R3)】
- ・休日検診の実施回数
【17回(H30実績)→24回(R3)】
- ・総合健診の収益額
【269百万円(H30実績)
→294百万円(R3)】
- ・施設におけるがん検診の収益額
【123百万円(H30実績)
→136百万円(R3)】
- ・がん予防検診事業会計 当期正味財産増減額
【△21百万円(H30実績)→0百万円(R3)】

○ 令和2年度の経営目標達成状況及び令和3年度経営目標設定表

I. 最重点目標(成果測定指標)

戦略目標	成果測定指標	新規	単位	ウエイト (R2)	R1実績値	目標値		R3目標値	ウエイト (R3)	中期経営計画 (H29～R3)		R3目標設定の考え方 (数値の根拠) ※累積数値による目標設定の場合は、その理由も記載	
						R2 実績値 〔見込値〕				R3目標値	最終年度 目標値		
② 受診者から評価の高い検診実施により、事業の安定化を図る。	総合健診の受診者数		人	35	16,159	14,482	[15,590]	15,600	35	15,600	15,600	・中期計画では毎年200人増を目標としている。 ・R2目標14,482人に対し実績〔見込〕が15,590人である。 ・R3目標は、コロナの影響で、受診者の拡大や受付人数の工夫などにより、ソーシャルディスタンスを確保しながら健診を行うため、大幅な人数拡大は困難な状況である。その中でも、R2年度実績と同程度であり、中期経営計画の目標値である15,600人を目指す。 (注) ・理事会、評議員会承認予算ベースとしている。	
法人経営者の考え方(取組姿勢・決意)											具体的活動事項		
最重点とする理由、 経営上の位置付け	<p>○当財団は、令和3年度において収支バランスの均衡を図ることを目指した第2期中期経営計画を平成29年6月に策定し(令和元年6月改定)、達成に向け事業を進めているが、最重点とした「総合健診」は公益目的事業であるがん予防検診事業の事業収益のうち約34%(令和元年度決算・収益の内最大)を占めており、第2期中期経営目標の達成に与える影響が大きい。</p> <p>○また、当財団の設立目的は、府民の死亡原因の上位を占めるがんと循環器の予防を目指した事業を推進することであるが、「総合健診」は、まさにこの目的に沿った事業であり、その推進は府民の健康の保持・増進に寄与するものである。</p>											<p>○午後検診は胃内視鏡検診に加え、令和元年度から子宮がん検診、総合健診時の特定保健指導等についても実施しているが、更に受診者数を増やし、5がんの受診者を受け入れることにより、効率的な検診を行う</p>	
最重点目標達成のための 組織の課題、改善点	<p>○新型コロナウイルス感染症の猛威により社会に様々な影響があるが、受診者の皆様へ安全安心な検診業務を確保するため、</p> <p>① ソーシャルディスタンスを確保する。 ② 体温測定、手指消毒、マスクの着用を徹底する。 ③ 検査機器やドアなどのアルコール消毒を徹底する。 などの対策を強化している。</p> <p>○受診者数の多い大規模団体が毎年入札を実施しているが、新型コロナの影響でこれまで入札に参加していなかった検診機関が新たに参加しており、入札でいきなり低価格での札を入れたため、落札できないケースがあった。また、年々単価が低下している低価格での入札は経営に悪影響を及ぼすため、公益目的事業として健診の質(精度)を確保しつつ、一つの大規模団体に頼らない収益構造に転換していく。</p> <p>○新たな視点での増収を図るため、「緊急事態宣言終了後の対応方針」を定め、受診者の拡大や受診受付人数を工夫するとともに、土曜検診の充実などを図り、安全安心の確保とともに、収益の確保へ向けて最大の努力を図る。</p> <p>○当財団では多くの団体の検診を受託し、団体の希望に応じた健診メニューを手作業処理しており、業務の効率化を図る必要がある。</p> <p>○施設構造が人間ドックのような検査項目の多い健診に対応しておらず、受診者が多くなると各所において待ち時間が発生するため、30分単位での受診者数を設けきめ細やかな対応を行い、効率良く受診できるように改善した。</p>											<p>○大阪市の住民検診(がん検診)をターゲットに受診者を増やす効果的な宣伝を行う</p> <p>○顧客の定着を図るためのダイレクトメール等を送付する(過去に受診歴があり直近年受診歴のない方等)</p> <p>○トップセールスをはじめ営業活動の強化による新たな契約団体の獲得を図る</p>	
活動方針	<p>○第2期中期経営計画において、令和3年度の財団のあるべき姿として、</p> <p>① 府民をがんから守る、精度の高い検診機関 ② 府民の健康づくりを支援する分析・研究機能の発揮 ③ 経営の自立化</p> <p>を掲げている。全職員がこの目標の達成を目指し、公益財団法人としての使命を認識し、府民の健康増進のため、総合健診をはじめ精度の高いがん検診と循環器健診を推進するとともに、効率的・効果的な検診(健診)を実施することにより、経営の抜本的改善を図る。</p>											<p>○平成29年2月に「人間ドック健診施設機能評価」の認定を受け、同年5月には「優良人間ドック・検査施設」として一般社団法人日本病院会及び公益社団法人日本人間ドック学会の連名指定を受けた。こうした認定及び指定をもとに、積極的に各健保組合に営業活動を行う。</p> <p>○検診業務の効率化を図るため、契約に当たってはできるだけ標準的な健診メニューの交渉をする。</p> <p>○各検診の待ち時間の更なる改善を図るため、受診者毎の検診項目に沿った検診順序別所要時間を想定した検診予約のシステム化を検討する。</p>	

II. 設立目的と事業内容の適合性(事業効果、業績、CS)

戦略目標	成果測定指標	新規	単位	ウエイト (R2)	R1実績値	R2		R3目標値	ウエイト (R3)	中期経営計画 (H29~R3)		R3目標設定の考え方 (数値の根拠) ※累積数値による目標設定の 場合は、その理由も記載	戦略目標達成のための活動事項
						目標値	実績値 [見込値]			R3目標値	最終年度 目標値		
① 市町村等の要望に応え検診車の効果的な稼働と精度の高い検診を実施する	検診車によるセット検診(乳がん・子宮がん)の実施回数		回	10	91	94	95	95	10	95	95	コロナの影響で、検診車の受診控えも予想され、回数拡大は困難である。その中でも、R2年度実績と同程度で中期経営計画の目標値である95回を目指す。	・市町村が検診計画を作成する前に、実施可能であることのPRを行う。 ・午前中から子宮がん・乳がんのセット検診を実施することにより、受診者の増加を図る。
	市町村の個別検診の受託件数		件	10	14	15	16	16	10	16	16	コロナの影響で、検診車の受診控えも予想され、契約回数拡大は困難である。その中でも、R2年度実績と同程度で中期経営計画の目標値である16件を目指す。	・個別検診の意向のある市町村に対し、積極的な働きかけを行う。
	大腸がん(職域)検診の精検受診率 (精検受診者数/要精検者数)		%	10	72.7	73.5	[73.9]	75.0	10	75.0	75.0	コロナの影響で、受診控えも予想されるが、精密検診による早期発見は重要であるため、R2年度実績と同程度で中期経営計画の目標値である75.0%を目指す。	・当センター以外での受診状況を把握し、未受診者への受診勧奨を行うことにより、受診率を向上させる。
② 受診者から評価の高い検診実施により、事業の安定化を図る	休日検診の実施回数		回	10	22	24	24	24	10	24	24	コロナの影響で、受診控えも予想されるが、女性にとって貴重な受診機会を確保するため、R2年度実績と同程度で中期経営計画の目標値である24回を目指す。	・土曜日の子宮がん・乳がん検診の実施、オプション検査の拡大について、市町村等へのPRを積極的に行う。 ・女性医師の確保に努める。
						24							

III. 健全性・採算性(財務)、コスト抑制と経営資源の有効活用・自立性の向上(効率性)

② 受診者から評価の高い検診実施により、事業の安定化を図る	総合健診の収益額		百万円	10	300	270	[272]	294	10	294	294	新たな視点で受診者の確保を行うことで、入札で単価の安い検診から、通常の施設検診価格の受診者に切り替えることにより、収益性の向上が見込まれるため中期経営計画R3目標値を目指す。	・人間ドック健診等収益率の高い総合健診(特定保健指導受診勧奨等)の増加を効果的な広報を実施することにより受診者数の増加を図り経営状況の改善につなげる。
	施設におけるがん検診の収益額		百万円	5	127	113	×[111]	136	5	136	136	新たな視点で受診者の確保を行うことで、入札で単価の安い検診から、通常の施設検診価格の受診者に切り替えることにより、収益性の向上が見込まれるため中期経営計画R3目標値を目指す。	・大阪市の住民検診をターゲットに効果的な宣伝を行う。 ・胃・大腸・乳・子宮及び肺がん検診受診者の増加を図り経営状況の改善につなげる。
	がん予防検診事業会計 当期正味財産増減額		百万円	10	1	△37	[△35]	0	10	0	0	新たな視点で受診者の確保を行うことで、入札で単価の安い検診から、通常の施設検診価格の受診者に切り替えることにより、収益性の向上が見込まれるため中期経営計画R3目標値を目指す。 収益・費用見込み 851百万円	・新たな視点での増収を図るため、受診枠の拡大や受診受付人数を工夫するとともに、土曜検診の充実などを図り、安全安心の確保とともに、収益の確保へ向けて最大の努力を図る。 ・収益確保のための取組みとして、総合健診受診者数の増、休日検診の実施、オプション検査の拡大、午後検診枠の拡大、車検診(セット検診)の効率的運営を図る。

【凡例】

- ・☆はR3年度からの新規項目
- ・×は目標値未達成
- ・↓は前年度実績比マイナスの目標値
- ・[]内の数値は、参考として記入した実績見込値
- ・()内の数値は、当該年度の経営目標として設定していないため、参考として記入した実績値

法人名

公益財団法人 大阪府保健医療財団

CS調査の実施概要

○ 令和2年度の実施結果

調査内容	実施方法	アンケート等対象者	対象者数	実施時期
大阪がん循環器病予防センターが実施する検診車による検診(胃がん、肺がん、乳がん、子宮がん)の満足度	車検診の受付で調査票を配布し、受診者が自書のうえその場に設置している回収箱に投かん。	・車検診での検診(胃がん、肺がん、乳がん、子宮がん等)受診者	513人	令和2年10月12日～ 令和2年10月20日

実施結果の主な内容	実施結果を踏まえた取組	令和2年度にめざす状態
<ul style="list-style-type: none"> 受診者の年齢構成をみると、70歳以上が33.7%と最も多く、次いで60歳代29.4%、50歳代19.1%と続き、70歳以上、60歳代及び50歳代で全体の82.2%を占めている。 受診内容の内訳は、胃がん検診が47.9%、乳がん検診23.4%、大腸がん検診46.9%、子宮がん検診45.3%、肺がん検診50.2%となっている。 検診スタッフの言動・態度については、「満足」92.3%と一昨年に比べ2.2ポイント増加、「ほぼ満足」は、変化なし、合わせて97.6%を占めており、一昨年に比べ2.2ポイント増加した。 診察、検診等の十分な説明については、「満足」92.8%と一昨年に比べ2.2ポイント、「ほぼ満足」も0.4ポイントそれぞれ増加し、合わせて一昨年に比べ2.6ポイント増加した。 検診にかかった時間については、「思ったより早く受診できた」77.4%、「普通」20.8%、「思った以上に時間がかかった」1.8%となった。「思ったより早く受診できた」が一昨年より16.2ポイント増加し、「普通」9.6ポイント、「思った以上に時間がかかった」が6.6ポイントそれぞれ減少した。 次回も当センターを受診したいと思うかについては、92.3%の受診者が「次回も当センターを受診したい」と回答した。 当センターに対する要望、改善点については、「対応・受付」口診察・問診・説明」についての改善要望があったが、記載内容の40.0%が「感謝・満足・励まし」の回答であった。 	<ul style="list-style-type: none"> アンケート結果をホームページに登載し、理事会・評議員会で報告するとともに、職員に周知し、いただいた意見を基に改善方策について討議を行い、改善できるものについては、直ちに対応した。 	<ul style="list-style-type: none"> 個別に記述された意見等を分析し、改善に結び付けていくとともに、引き続き満足度を高めるよう努力する。

○ 令和3年度の実施方針

調査内容	実施方法	アンケート等対象者	対象者数	実施時期
大阪がん循環器病予防センターにおける健(検)診の満足度	受付で調査票を配布し、受診者が自書のうえ回収箱に投かん。	・施設検診受診者	500人	令和3年10月

■ 目標値未達成の要因について

〔1〕

R2年度の 成果測定指標	単位	R2年度の 目標値	R2年度の 実績値〔見込値〕
施設におけるがん検診の 収益額	百万円	113	〔111〕

未達成の 要因と分析	<p>新型コロナウイルス感染症による緊急事態宣言を受け、4・5月の総合健診が休止となったこと、6月においても受診控えにより、例年の受診者数に至らなかったことが主な要因。</p> <p>総合健診は前月から11月は前年を上回る受診者にお越しいただき一部回復したものの、受診者数が前年を下回った。</p>
-----------------------	---

今後の 改善方策	<p>大阪市の住民検診をターゲットに効果的な宣伝を行う。</p> <p>胃・大腸・乳・子宮及び肺がん検診受診者の増加を図り経営状況の改善につなげる。</p>
---------------------	--

〔2〕

R2年度の 成果測定指標	単位	R2年度の 目標値	R2年度の 実績値〔見込値〕

未達成の 要因と分析	
-----------------------	--

今後の 改善方策	
---------------------	--

■ 令和2年度実績比 マイナス（現状維持）目標の考え方について

〔1〕

成果測定指標	単位	R2年度の実績値(見込値)	R3年度の目標値
検診車によるセット検診（乳がん・子宮がん）の実施回数	件	95	95

<p>マイナス（現状維持）目標の考え方</p>	<p>コロナの影響で、検診車の受診控えも予想され、回数拡大は困難である。その中でも、R2年度実績と同程度で中期経営計画の目標値である95回を目指す。</p>
--------------------------------	---

〔2〕

成果測定指標	単位	R2年度の実績値(見込値)	R3年度の目標値
休日検診の実施回数	回	24	24

<p>マイナス（現状維持）目標の考え方</p>	<p>コロナの影響で、受診控えも予想されるが、女性にとって貴重な受診機会を確保するため、R2年度実績と同程度で中期経営計画の目標値である24回を目指す。</p> <p>月2回、土曜日に検診を実施しており、検診を行った医師やスタッフは代休取得での対応となるため、人員体制やコスト面において、これ以上の実施回数の増加は困難である。</p>
--------------------------------	--